



行事予定表	
1	日
2	月 交通安全教室 (4・5歳児)
3	火 ピヨピヨ
4	水 尿検査回収日
5	木 冬遊び交流会
6	金
7	土
8	日
9	月
10	火 発表会予行練習 (I部)
11	水 発表会予行練習 (II部)
12	木
13	金
14	土 発表会 (2歳児以上) ※土曜保育無し
15	日
16	月
17	火
18	水 おべんとうデー
19	木 誕生会
20	金 避難訓練
21	土
22	日
23	月
24	火
25	水 クリスマス会
26	木
27	金 保育納め
28	土
29	日 休み
30	月 休み
31	火 休み

立冬になって夏が続いたがさすがに、11月半ばを過ぎると急に寒くなってきた。

緑と黄と赤と、色とりどりに移ろった木々の葉が、今は木枯らしに散り始め子ども達は手を空にかざし地上に落ちる前に捕ろうとくるくる舞い落ちる葉を追いかけている。

落ち葉が山になると

焼き芋の経験のある年中長児は

私の顔を見ると焼き芋やって、とせがむ

「私は焼き芋屋じゃない」と言っても聞かない。

ウルトラマンごっこの怪獣にさせられたり

焼き芋屋にさせられたり、私は忙しい。

そして、もうすぐ冬になり、サンタになる。



♡サンタクロースへの思い♡

・クリスマスツリーの前で、子ども達は、♪ジングルベル ジングルベルすずがくなる♪と身体を揺らしながら歌っています。サンタさんにも手紙を書いて、事務室前のポストに投函し、なぜか？手を合わせて拝みます。手紙の内容は、「サンタさん気を付けて来てね」「サンタさんのこと覚えているよ」等、ステキなメッセージがたくさんありました。子ども達の夢見る気持ちを大人も大切に守りたいですね。

今月の予定の中から

●尿検査 (4日)

・尿検査は、7日の朝の尿の提出をお願いします。お子さんの体調に関する大事なことなのでご協力よろしくお願ひします。

●冬遊び交流会 (5日)

・本園の5歳児とつつじが丘保育園とふたばランド保育園の5歳児が、牛久二小へ伺い小学生との交流を楽しんでいきます。就学への期待もより高まる機会となるようにと考えています。

●発表会 (14日)

・当日は2歳児以上の参加となりますが、園全体で発表会ごっこを楽しんでいます。参加される保護者の方々も暖かい眼差しで子ども達の発表を見守ってくださいね。



●おべんとうデー (18日)

・おべんとうデーは、お子さんの好きなものを入れて頂けると、完食の喜びを感じられると思うので、よろしくお願ひします。

●誕生会 (19日)

・誕生児にとって1年に1回の大切な日。1年の成長を園全体で感じる誕生会です。今月のお楽しみは、「バルーンショー」で、費用は保護者会費から出して頂いています。

●クリスマス会 (25日)

・クリスマス会は、ホールの中も賑やかな雰囲気の中で、ぞうグループのキャンドルサービスから始まります。今年もサンタさんくるかな？

●保育納めの日 (27日)

・各保育室で今年を振り返り、日頃の感謝を込めて、各保育室を子ども達と大掃除をします。ご家庭の大掃除も、是非子ども達に手伝ってもらいたいですね。

★お知らせ★

・年末・年始は12/29〜1/3まで休園です。

※1/10(金)の餅つきの手方を募集中です。

「想像力」

イスラエル家族が日本旅行を楽しんでいる様子と、現地のプール付き豪邸生活を知人から見せられた。高い壁の中に押し込められ、爆撃を受けているパレスチナの惨状に、

最近観た「関心領域」という映画を思い出した。虐殺場面などなかったが、アウシュビッツ収容所長一家は、壁を隔てた隣に住んでいて、悲鳴も銃声も聞こえはす。それなのに、何も気に止めることなく、囚人から奪った高価な物を身にまとい、囚人を召使に使って、豊かな生活を送っていた。かつて、悲惨な目にあったイスラエル人が、今度は、ガザのパレスチナの人々の悲鳴に無関心でいる。同じ事はロシアとウクライナの間にもある。侵略を防衛のための侵攻といわれ、偽情報を信じ込んでいるロシアの人々は、ウクライナの痛



み、苦しみを想像することなく、何も感じないのだろうか？アメリカでも、排他と虚偽をふりまき、差別発言で恐怖と分断をはかり、そして、子ども達の未来に対する想像もせず、気候変動を否定している人がいる。▼いじめ

が増えて、重大事態が過去最多になっている。いじめは自死に至る程の苦しみと、心に消えることのない深い傷を受ける。保護者に「どういう子に育てたいですか？」と聞くと「健康で心優しい子」という。優しいとは、まさに人を憂いと書く。人の立場になって、その人のことを思うことである。いじめは、いじめられる相手の気持ち、辛さを想像できないのである。子ども達の想像力が、次第に「乾いて」きている。▼私達人間は、他人の痛み・苦しみを想像できないのだろうか。元京都大学長の山極寿一さんは、「人間は元来、目の動き、顔の表情などで相手の心を読み、相手を察する能力をもっていた。そのコミュニケーションの方が 原初であって、言葉だけでなく、対面することが大切である。そして、心と体を相手と一体化し、相手の気持ちになる。それが共感するということである。人と人が共に感じ、協同する「共感力」が人類を進化させ、発展させた。」と述べている。

しかし、スマホ脳に陥り、SNSで炎上し、洗脳され、自分の頭でじっくり考え、想像することができなくなっている。心と体でじゃれつき合い、ぶつかり合い、心と心が通じ合う体験「遊び」をさせなければ、人に対する想像力は育たない。絵本を読み聞かせ、お話を聞かせ、想像の世界を体験したり、自然の事象や変化に気づき、考え、想像することができる子ども達の環境を守っていききたい。そして、未来の地球環境に対しても、他人に対しても、じっくり考え、想像できるような人になって欲しい。

理事長 浅田精利

